

中学校一日訪問実習での保健指導体験における学生の学び — 養護教諭特別別科生の感想文の分析から —

斉藤 ふくみ*・谷崎 勝弘**・久保 明博**
谷口 のぶ子**・丸尾 秀子**

What the Students Learnt from the Experience of Health Guidance during the
One-Day Practical-Training Visit to the Junior High School
— From the Analysis of the Students' Impressions of the Special Yogo
Teachers' Course —

Fukumi SAITO, Katsuhiko TANIZAKI, Akihiro KUBO, Nobuko TANIGUCHI and Hideko MARUO

はじめに

養護教諭特別別科は、入学資格が保健師助産師看護師法第21条の各号のいずれかに該当することであり、一年間の養護教諭養成教育を経て規定の単位を修得し、同法第7条の規定による看護師の免許を受けた者が、養護教諭一種免許状の授与の所要資格を取得できる課程である。一年間で、一般教育科目、養護に関する科目、教職に関する科目を学び、養護実習と養護実践研究を修め、最低40単位の修得で修

了となる。入学後半年あまりで迎える養護実習での学びをより深めるために、本別科では各科目と平行した形で臨地実習と特別講演を実施している。本別科のカリキュラムと臨地実習の概略を図1に示した。養護実習の前に実施される臨地実習には、中学校一日実習、小学校一日実習、中学校授業実践実習、母校訪問がある（母校訪問については昨年度本誌に発表した¹⁾）。一方特別講演は、現職の学校長、教諭、養護教諭そして歯科医師が担当し、「養護教諭が行う健康教育」「保健学習」「小学校における養護活

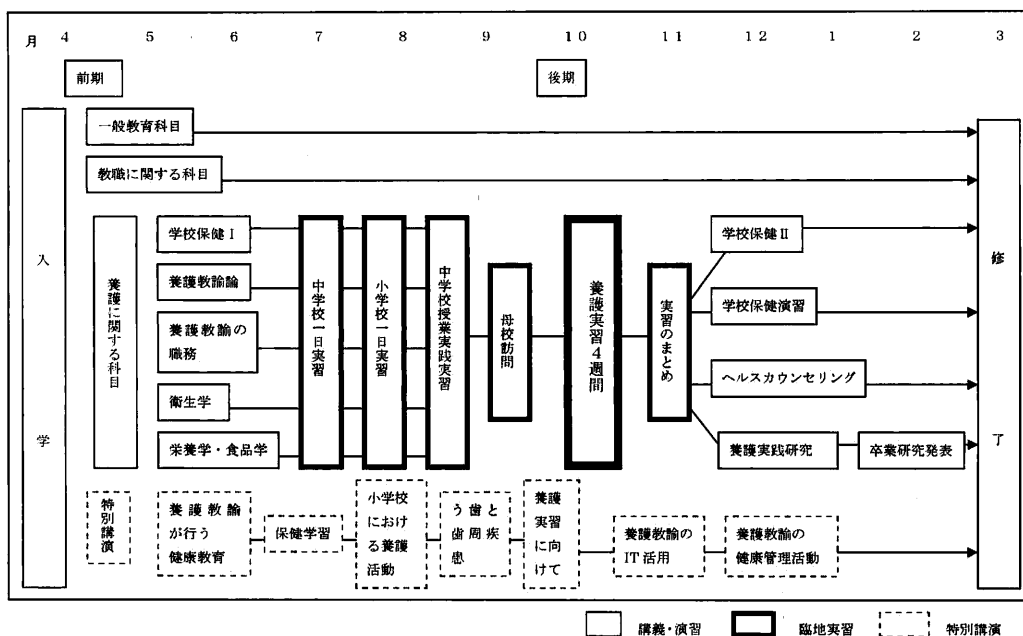


図1 養護教諭特別別科カリキュラムと臨地実習の概略

* 熊本大学養護教諭特別別科
** 坂本村立坂本中学校

動」「う歯と歯周疾患」「養護実習に向けて」の5講演を行っている。養護実習後は、実習のまとめを行

い発表し合うことで学生間の学びの共有化と討論による学びの深化を図っている。特別講演は、現職の養護教諭により「養護教諭のIT活用」と「養護教諭の健康管理活動」を実施している。後期は、養護に関する科目の中で、学生個々の養護実習での体験と学びを振り返り、理論と実践の統合を図るとともに、1年間の学習の集大成として養護実践研究を行っている。

本別科では、学生にできるだけ学校現場に親しむ機会や子どもと触れ合う機会を設けることで、教育や養護そして子ども理解を促すことを企図している。とりわけ、初めての臨地実習である中学校一日実習は、学生にとって多くの発見や驚きをもって迎えられ、最も刺激を与える実習である。平成12年度からスタートしたS中学校での一日実習は、回を重ねるごとに実習内容の充実を図ってきた。中学校一日実習内容のこれまでの推移は図2に示すように、平成12年度・13年度の生徒との交流を主としたものから、昨年度より保健指導の実践を行っている。一日実習に関する研究報告には、鈴木ら²⁾による1年次の一日観察・参加実習の報告や堀内ら³⁾の1年生の保健室見学の試みの報告がみられる。前者⁴⁾の内容は、クラスでの観察・参加・保健室観察・養護教諭との懇談である。後者⁵⁾の内容は、通常の保健室での養護教諭の執務や生徒への対応の見学である。養護実習における学生の保健指導実践はほとんどの養成課程で実施されているが、一日実習の内容に学生の保健指導実践を盛り込んでいるものは、石原ら⁶⁾の報告がある他はあまりみられないようである。そこで本報は、学生が初めて生徒と触れ合い保健指導を体験することにより、学生にどのような学びや変容をもたらすのか、学生の感想文から学びの分析を試み、若干の知見を得たので報告する。

対象および方法

平成15年4月に本別科に入学した42名の学生を対象として、平成15年6月6日県内の公立S中学校において一日臨地実習を実施した。なお、当日の参加者は、41名（男1名・女40名）であった。一日の流れは、資料1のとおりである。実習内容は、学校長による講義「中学校の現状について」、栄養職員による講義「学校給食について」、養護教諭による講義

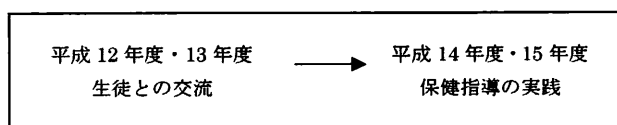


図2 中学校1日実習内容の推移

「養護教諭の職務について」の3講義の他、学生が生徒と共に給食をとったり、昼休みを生徒と一緒に過ごす等生徒との触れ合いの時間をとった後、50分間の保健指導（歯みがき指導）を実習した。保健指導（歯みがき指導）の実施要領は資料2に示した。なお、臨地実習の事前指導として、学生対象に歯科保健指導を実施した（表1）。実習終了後、学生に対して感想文の提出を指示した。本報では、保健指導体験の感想部分のみを対象として内容の分析を行った。なお分析の手法は、小野ら⁷⁾の報告を参考とした。倫理的配慮として学生に対して研究の主旨を説明し同意を得た。

結果および考察

1. 保健指導体験の感想の内容分析

学生の保健指導体験の感想のデータのうちわけは、書き出しから句点「。」で区切られた一文を一単位として合計165単位文が認められた。学生一人あたりの平均単位文数は4.0であった。最高は8単位文、最低は1単位文であった（表2）。165単位文の内容を分析した結果は表3に示すように、52コードを抽出し、さらに29項目のサブカ

表1 歯科保健指導の事前指導

テーマ	歯科保健指導を実践してみよう
ねらい	(1) 歯科の生理に関する知識を修得する (2) 中学生期の歯科の特徴を理解する (3) 効果的な歯みがき指導を実施する
指導の特徴	(1) グループワークで染め出しによる歯磨きの実践活動を行う (2) 学生同士が学び合う場を設定し、教え合うことを経験する
授業の内容	(1) 歯の基本的知識を修得する (2) 染め出しにより口腔内を観察する (3) 歯磨きを実践し、個々の歯に合った磨き方を工夫する (4) 中学生に対してどのように指導したらよいか考察する
文献	文部省「小学校歯の保健指導の手引き（改訂版）」平成4年2月

表2 保健指導実習の感想のデータの概要

	n
単位文数	165
平均単位文数	4.0
最高	8
最小	1

※対象者数：41

表3 カテゴリーの類型化

カテゴリー	サブカテゴリー数	コード数	データ数*
初めての保健指導実習	3	5	14
生徒の実態把握	4	7	25
コミュニケーションの体験	2	3	7
保健指導の難しさの認識	4	6	27
指導による生徒の変容	2	4	18
事前学習の大切さ	1	1	5
指導方法の工夫と検討	3	11	22
保健指導実習を通しての学び	3	5	22
貴重な体験	3	4	7
教師としての自覚	3	4	13
今後の決意	1	2	14
計	29	52	174

*重複あり

表4 保健指導体験の感想の内容分析

() はデータ数

コード	サブカテゴリー	カテゴリー
真剣に勉強して臨まなければと思った (1)	歯磨き指導の勉強をして臨んだ	初めての保健指導実習
生徒に伝えたいことをいくつか考えていた (1)		
実際に生徒と接するのは初めてでとても緊張した (5)	生徒と接するのは初めてでとても緊張した	
学生2人に生徒3人の保健指導を行った (4)	初めて保健指導を行った	
初めて保健指導を行った (3)		
担任より生徒の個別の情報を得た (2)	生徒の個別情報を得た	生徒の実態把握
生徒の中には歯磨きを面倒と感じている者も少なくないと思う (1)	生徒の歯磨きに対する感じ方は様々である	
やりたくなさそうにしている生徒がいた (2)		
歯を見せるのを恥ずかしがった (11)	口腔内を見せるのを恥ずかしがったり、じやれたりする様子がみられた	
生徒はいろいろな表情をみせた (5)	歯の磨き方が身に付いていない生徒がいた	
磨き残しの部分が想像以上に多い (3)		コミュニケーションの体験
歯の並び、歯数は一人一人異なる (1)		
一つ一つ丁寧に指導していくことで信頼関係ができた (2)	一つ一つ丁寧に指導していくことで信頼関係ができた	コミュニケーションの体験
目と目を合わせて話をした (2)	コミュニケーションの大切さを実感した	
コミュニケーションがとれていることが第一条件である (3)		保健指導の難しさの認識
思春期の生徒の対応の難しさを感じた (3)	生徒との関係づくりに困難を感じた	
その生徒に対する目標をどう決定したらいいか困った (1)	その生徒に対する目標をどう決定したらいいか困った	
スムーズに指導できなかった (6)	充分指導することができなかった	
教えるということは難しいと感じた (5)		
時間配分がうまくできなかった (4)	発問の難しさを実感した	指導による生徒の変容
生徒自身が考えるように思ったがうまく展開できなかった (8)		
生徒に真剣に関われば、生徒も真剣に関わってくれることを感じた (3)	生徒に関われば関わるほど生徒は何らかの反応を返してくれる	
磨き方を指導すると、歯ブラシを工夫して使用し、上手に磨いた (5)	指導に従い磨き方を工夫したり、どうしたら綺麗に磨けるか気づいた	
生徒自身が磨き残しに気づいた (4)		
一生懸命磨いていた (6)		事前学習の大切さ
指導者自身の事前学習の重要性を感じた (5)	事前学習の大切さを感じた	
赤ペンで塗るとどの部分がよく磨けていないか、はっきり分かると思った (1)	教材の工夫がわかった	指導方法の工夫と検討
最初は自由に磨かせた (1)		
よい所をほめた (2)		
生徒ができていない所を一緒に考えた (2)	指導の工夫をしてみた	
ヒントを出してみた (4)		
目的から説明した (1)		保健指導実習を通しての学び
生徒の個性に合わせて、その生徒にとって最も良い方法を心がけて行った (1)		
効果的な声かけを考えさせられた (2)	指導方法を検討しなくてはならない	
生徒の実態への理解・配慮が必要である (2)		
生徒に考えさせる指導が必要である (3)		
歯の裏側を磨く方法を指導しなければならない (3)		貴重な体験
個別指導は、一人一人を把握でき、細かいところまで指導することができるので大切だと思った (7)	個別指導の大切さを学んだ	
個人への対応の仕方についても学ぶことができた (10)	指導者の力量形成の重要性を学んだ	
指導者が指導内容を十分理解し、知識をもっていないと生徒には指導できないと思った (3)		
クラス全員に指導するのは難しいと思った (1)		
集団指導と個別指導を併用して、生徒にとって有効なものになるようにしていく必要がある (1)	生徒と実際ふれあわないとわからない	教師としての自覚
生徒が最後まで一生懸命取り組む姿をみて、私も小さな事でも一生懸命やりたいと思った (1)	生徒の姿から学んだ	
貴重な実習をさせていただいた (4)	今回の経験はとても勉強になりました	今後の決意
保健指導の楽しさを実感することができた (1)		
生徒は学生を先生とみており、一つ一つの言動に注意しなければならないと感じた (6)	先生とみなされていることを実感した	
生徒には今後も上手に磨けるように頑張ってもらいたいと思った (1)	教師の願い	
生徒と楽しい時間を過ごした (4)	中学生と接することができ、とても楽しい時間でした	
生徒が本当にかわいらしいと思った (2)		今後の決意
今回の体験を通し、今後より良い指導ができるように頑張っていきたい (12)	今回の学びをこれからは生かそうと思った	
自分自身の知識不足を感じたため、もっと勉強しようと思った (2)		

テグリーに分類し、さらに11項目のカテゴリーに類型化された。なお、分析内容の詳細は表4に示した。

コード名は〈〉、サブカテゴリー名は《》、カテゴリー名は【】と表記する。カテゴリーは【初めての保健指導実習】【生徒の実態把握】【コミュニケーションの体験】【保健指導の難しさの認識】【指導による生徒の変容】【事前学習の大切さ】【指導方法の工夫と検討】【保健指導実習を通しての学び】【貴重な体験】【教師としての自覚】【今後の決意】の11項目に分類された。

最もデータ数の多いカテゴリーは、【保健指導の難しさの認識】であり、コード数は6、サブカテゴリー数は以下の4であった。《生徒との関係づくりに困難を感じた》《その生徒に対する目標をどう決定したらいいか困った》《充分指導することができなかった》《発問の難しさを実感した》。学生にとっては、入学後2カ月足らずの保健指導の経験は、事前指導で行った歯みがき指導の経験のみで生徒に向き合ったはなはだ心細いものであったことがうかがえる。講義の中では理解できても実際場面ではとまどいを覚え〈教えるということは難しいと感じた〉と述べていた。

次にデータ数の多いカテゴリーは、【生徒の実態把握】であった。コード数は7、サブカテゴリー数は4であった。最もデータ数の多いコードは〈歯を見せるのを恥ずかしかった〉という生徒の様子であり、歯みがき指導以前の事態に学生は多くの感想を寄せていた。その一方では〈磨き残しの部分が想像以上に多い〉〈歯の並び・歯数は一人一人異なる〉ことを冷静に観察しており、これらから《歯の磨き方が身に付いていない生徒がいた》というサブカテゴリーを導き出した。

次にデータ数の多いカテゴリーは、【指導方法の工夫と検討】と【保健指導実習を通しての学び】であった。【指導方法の工夫と検討】には3つのサブカテゴリーが含まれ、《教材の工夫がわかった》《指導の工夫をしてみた》《指導方法を検討しなくてはならない》であり、教材の工夫に感心すると同時に、短い指導時間の中で〈最初に自由に磨かせた〉〈よい所をほめた〉〈生徒ができていない所を一緒に考えた〉〈ヒントを出してみた〉〈目的から説明した〉〈生徒の個性に合わせて、その生徒にとって最も良い方法を心がけて行った〉など指導の工夫を試みていた。そしてさらに反省・評価をして〈効果的な声かけ〉〈生徒の実態への理解・配慮〉〈生徒に考えさせる指導〉〈歯の裏側を磨く方法〉等検討事項を記述してい

た。集団・個別の保健指導に関しては、養護教諭の力量をつけるためのトレーニングが必要とされる⁹⁾が、初めての保健指導においても学生は工夫したり、検討事項を見出している点は、臨地実習の効果の大きさを示唆するものである。【保健指導実習を通しての学び】では《個別指導の大切さを学んだ》《指導者の力量形成の重要さを学んだ》《個別指導と集団指導の違いについて考えた》という3つのサブカテゴリーに分類された。〈個別指導は、一人一人を把握でき、細かいところまで指導することができるので大切だと思った〉と同時に〈指導者が指導内容を十分理解し、知識をもっていないと生徒には指導できないと思った〉。さらに、個別の指導から〈クラス全員に指導するのは難しいと思った〉と集団指導に思いをめぐらせていた。これは学生が養護実習での授業実践（研究授業）を意識しての感想と思われる。

次にあげられるカテゴリーは、【指導による生徒の変容】である。サブカテゴリーは《生徒に関われば関わるほど生徒は何らかの反応を返してくれる》《指導に従い磨き方を工夫したり、どうしたら綺麗に磨けるか気づいた》にまとめられた。学生は、初めての拙い指導ながら、生徒に受け止められ生徒が反応を返してくれたり、生徒が自ら気づく姿に素直に感銘している様子が見られる。

次にデータ数の多いカテゴリーは、【初めての保健指導実習】と【今後の決意】であった。【初めての保健指導実習】では、《歯みがき指導の勉強をして臨んだ》《生徒と接するのは初めてでとても緊張した》とともに《初めて保健指導を行った》喜びにまとめられた。【今後の決意】では、〈今回の体験を通し、今後より良い指導ができるように頑張っていきたい〉〈自分自身の知識不足を感じたため、もっと勉強しようと思った〉から《今回の学びをこれからに生かそうと思った》というサブカテゴリーにまとめた。堀内ら⁹⁾は学生の感想文を分析した結果、保健室見学によって得られた効果として、「自分なりの養護教諭像をつかむことができ、今後の学習意欲向上に繋がった」が約3割を占めたと報告しているが、本報においても、〈頑張っていきたい〉〈もっと勉強しようと思った〉という記述から保健指導体験の効果と捉えることができる。

次にデータ数の多いカテゴリーは【教師としての自覚】であった。学生は生徒から《先生とみなされていることを実感した》《中学生と接することができ、とても楽しい時間でした》と述べてい

た。そして〈生徒には今後も上手に磨けるように頑張ってもらいたい〉は、《教師の願い》にまとめられた。実習は、児童・生徒との触れ合いや教師集団との接触によって、教育への情熱をかきたて、教師としての自覚を持つ良い機会となる¹⁰。徳井¹¹は、教師の成長を促すものは、教師自身の内的な条件が必要であると指摘している。学生は生徒に先生とみなされることにより教師としての自覚が生まれ、学生の内面に変化が生じていることが推察される。

次にあげられるカテゴリーは、【コミュニケーションの体験】と【貴重な体験】の2項目であった。保健指導を行っていくうえで〈信頼関係〉〈コミュニケーションがとれていること〉が非常に重要であることを実感している。また【貴重な体験】では《生徒と実際ふれあわないとわからない》《生徒の姿から学んだ》《今回の経験はとてもしんどくなりました》の3つのサブカテゴリーにまとめられた。このカテゴリーからも一日実習の有効性が感じられる。

最後のカテゴリーは、【事前学習の大切さ】であった。これは実際に生徒を前にして自らが指導者として保健指導を行う体験をしての実感といえる。同じく別科で、養護実習中に課題研究を課しているH大学では、入学後の4月上旬から事前指導に取り組んでいると報告している¹²。今回は、一日実習の前日に2コマの事前指導を実施したにすぎず、不十分さはいなめない。早期の事前指導を今後検討していく必要がある。

以上11のカテゴリーに類型化された。石原¹³は、保健指導体験における学生の反応から「養護教諭も教育者であることを自覚する」「指導の反

応を得ることで、幼児・児童の実態を具体的に理解する」「養護活動における保健指導の重要性を理解する」の3項目を導き出している。本報では、同様のカテゴリーを確認すると同時に、他に8項目を得、学生の学びをより詳細に類型化することができたと思われる。

2. 学生の学びの過程

11項目に分類されたカテゴリーは、中学校一日実習における学生の学びを段階を追って説明していた。【初めての保健指導実習】を緊張して迎え、実際に生徒と接してみると、恥ずかしがるなど【生徒の実態把握】をした。保健指導を進行する過程で、生徒との【コミュニケーションの体験】を通してその大切さを実感した。そして多くの学生は、【保健指導の難しさを認識】した。その一方で、自らの【指導による生徒の変容】を観察し、生徒は関わると反応することに感動した。次いで【事前学習の大切さ】を感じるとともに、【指導方法の工夫と検討】をした。そして【保健指導実習を通しての学び】をあげ【貴重な体験】であったことおよび【教師としての自覚】をし、【今後の決意】を表明していた。

養護実習の具体的目標¹⁴として「実習を通して教育に対する強い信念と、児童・生徒に対する限りない愛情を養い、常に問題意識をもって研究的に対処し、すすんで実習校の教育活動に貢献するように努めることが、教師としての前向きな姿勢につながることを理解する」が一項目として掲げられているが、今回の中学校一日実習においては、ほぼ目標に達していると捉えられる。その一方で養護教諭像のイメージの構築は、保健指導体験か

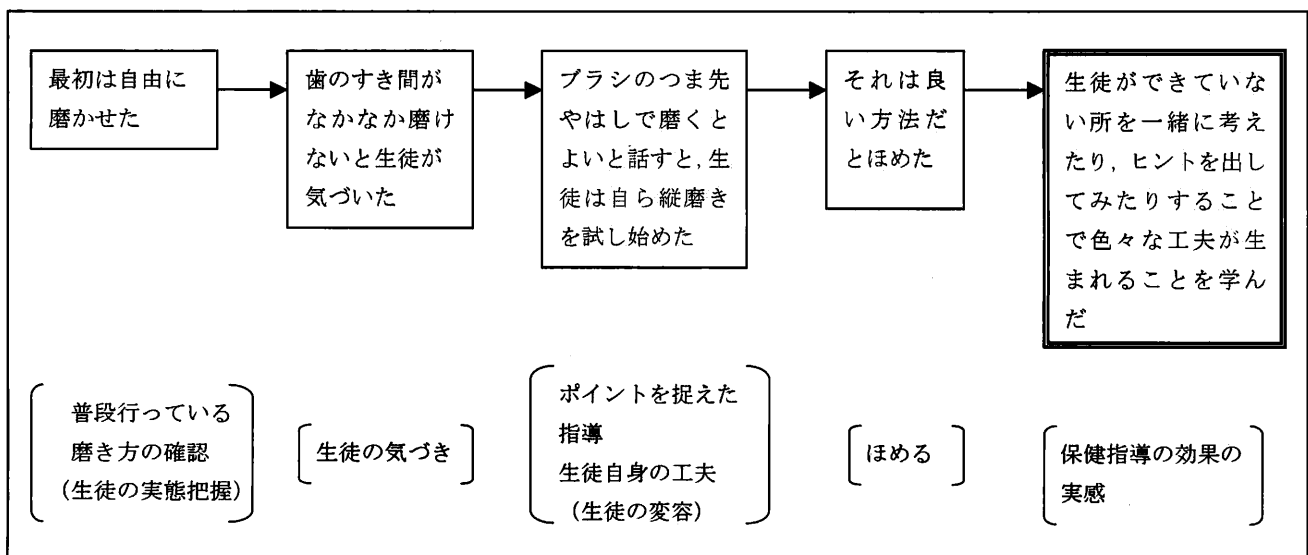


図3 一学生の保健指導実習を通しての学びの過程

らは浮かび上がってこなかった。今回の保健指導実習は、指導者としての教師の自覚や志向はうながされたが、養護教諭と結びつけたイメージ化につながらなかった（しかし、今回の一日実習の感想文のレポートの中には、養護教諭の講義の感想を記入する欄があり、そちらでは養護教諭像の明確なイメージ化が図られていた）。学生は養護教諭と保健指導の関係を十分に明確にしていなかったように思われる。保健指導は養護教諭の重要な養護活動の一つであることから、今後は他の養護に関する科目および事前指導の中で学生に伝えることが重要である。

学生全体の学びの段階は以上確認したとおりであるが、一人の学生の感想文から、学びの過程を整理することができた（図3）。最初は自由に磨かせて「生徒が普段行っている磨き方を確認（生徒の実態把握）」するとともに、歯のすき間がなかなか磨けないことに「生徒が気づく」過程を経て、「ポイントを抑えた指導をすることで生徒自ら縦磨きを始める工夫（生徒の変容）」がみられた。そこですかさずそれは良い方法だと「ほめて」、最後は生徒ができていない所と一緒に考えたり、ヒントを出してみたりすることで色々な工夫が生まれるということを学び「保健指導の効果を実感」したでまとめられた。ほんの50分間の保健指導体験は、学生の内面に多くの気づきや変化をもたらした。ここでの学びは養護実習につながる事前指導として保健指導実習が有効であることを示している。養護実習をより学びの深いものにするために本別科で試みた臨地実習が有意義であることが確認された。

ま と め

本別科学生が現職養護教諭から指導を受けたり、学校現場の雰囲気を受けて、実際の教育活動を参観し、児童・生徒と直接触れ合う臨地実習をできるだけ早期に可能な限り数多く経験することにより、学生の養護教諭志向を刺激し、学習意欲を高めて、養護実習への心構えにつながるものと考えている。本年度は、前期に3つの臨地実習を実施した。最初に実施した中学校一日実習における保健指導実習を通して学生が学んだ内容を構造的に捉えることができた。

1. 学生の保健指導体験の感想文の内容を分析した結果から、52コードを抽出し、さらに29項目のサブカテゴリと11項目のカテゴリに類型化された。
2. カテゴリは、【初めての保健指導実習】【生徒

の実態把握】【コミュニケーションの体験】【保健指導の難しさの認識】【指導による生徒の変容】【事前学習の大切さ】【指導方法の工夫と検討】【保健指導実習を通しての学び】【貴重な体験】【教師としての自覚】【今後の決意】に分類され、学生の学びの深まりを段階を追って捉えることができた。

3. 一学生の実習を通しての感想から「普段行っている磨き方の確認（生徒の実態把握）」「生徒の気づき」「ポイントを抑えた指導、生徒自身の工夫（生徒の変容）」「ほめる」「保健指導の効果の実感」の一連の学びの過程を導き出すことができた。最後に、一日実習および保健指導実習にご協力下さいましたS中学校の諸先生方と生徒の皆さんに心よりお礼申し上げます。とりわけ生徒の皆さんからの歌のプレゼントは、学生にとって素晴らしい思い出になったことを付記します。

文 献

- 1) 齊藤ふくみ：養護教諭特別科学生の養護教諭像形成に関する一考察—母校訪問レポートの分析を通して—、熊本大学教育実践研究, 20, 79-85, 2003
- 2) 鈴木薫・井駒洋子・岡本佐登子他：実践的指導力の育成をめざす養護実習のあり方—実習につながる事前指導の試み—、日本教育大学協会研究集録, 37, 89-96, 2002
- 3) 堀内久美子・下村淳子：養護教諭養成課程1年生の授業に保健室見学を取り入れる試み、日本養護教諭教育学会誌, 5(1), 69-75, 2002
- 4) 前掲書2), 89
- 5) 前掲書3), 71
- 6) 石原昌江・井駒洋子・鈴木薫：養護実習における保健指導体験と学生の反応、全国養護教諭教育研究会第3回研究大会抄録集, 22-23, 1995
- 7) 小野晴子・杉本幸枝・土井英子他：基礎看護学一日実習の効果と位置づけの検討—実習記録の内容分析を通して（Part II）—、新見公立短期大学紀要, 22, 53-63, 2001
- 8) 飯田澄美子・堀内久美子・天野敦子他：養護活動の基礎第7章養護実習, 191, 家政教育社, 東京, 1988
- 9) 前掲書3), 72
- 10) 前掲書8), 191
- 11) 徳井輝雄：第2章教師の立場から（原岡一馬編「これからの教育1教師の成長を考える」）32, ナカニシヤ出版, 京都, 1990
- 12) 山本道隆：養護実習と養護実習課題研究の指導計画, 人文論究, 72, 115-122, 2003
- 13) 前掲書6), 23
- 14) 杉浦守邦監修：養護教諭講座・5養護実習, 3, 東山書房, 京都, 1984

資料1

平成15年度
熊本大学養護教諭特別別科（29回生）一日実習計画

- 1 目的 熊本大学より依頼を受け、教育実習事前指導として養護教諭特別別科の学生が中学校の現状について学ぶ機会とする。
- 2 期日及び場所 平成15年6月6日（金）
- 3 来校者 熊本大学養護教諭特別別科の学生（42名）
- 4 日程及び実習生のタイムスケジュール

午前短縮日課

限目	時間	項目	時間	内容	場所	担当者
①	8:50					
	9:35					
②	9:45	到着	10:00			
	10:30	オリエンテーション	10:00~10:10	10分	会議室	久保・丸尾
③	10:40	講義	10:15~11:00	45分	講義① 「中学校の現状について」	2年 ランチルーム 谷崎
	11:25	講義	11:10~11:30	20分	講義② 「学校給食について」	2年 ランチルーム 谷口
④	11:35		11:30~12:15	45分	「養護教諭の職務について」	2年 ランチルーム 丸尾
	12:20	対面式	12:20~12:40	（移動も含む）	体育館	諸熊
*実習学生の紹介（丸尾） *坂本中学生徒会より歓迎の言葉 *学生代表の挨拶 *歌のプレゼント（工藤）						

午後普通日課

給食	12:40	給食	12:40~13:20	40分	生徒と一緒に弁当を食べる。	1年・2年 ランチルーム 3年教室
	13:20					
昼休み	13:20	昼休み	13:20~13:40	20分	生徒と一緒に過ごす。	
	13:40					
掃除	13:40	保健指導準備	13:40~13:55	15分		2年生 ランチルーム 丸尾
	13:55					
⑤	14:00	1年歯みがき指導（学活）	14:00~14:50	50分	別紙計画	武道場 1,2年ランチルーム 丸尾 1学年の先生方
	14:50					
⑥	15:00	後片づけ	14:50~15:00	10分		丸尾
		質疑応答まとめ	15:00~15:15	15分		2年生ランチルーム 谷崎、久保、丸尾

6 その他

- 連絡先 熊本大学養護教諭特別別科 齊藤 096(342)2911
- 学生準備物（名札、弁当、水筒、スリッパ、筆記具、歯ブラシ等）

資料2

1年生歯磨き指導実施計画

- 日時 平成15年6月6日(金) 5校時:学活(14:00~14:50)
- 会場 坂本中武道場(全体)、1年ランチルーム(1組)、2年ランチルーム(2組)
- ねらい

(坂本中生徒) 自分の歯磨きの弱点を知り、歯垢をきれいに落とす歯磨きの方法を習得する。
 (実習学生) 生徒とコミュニケーションを取りながら、個々に応じた歯磨き指導を実施する。

○準備物

坂本中生徒	歯ブラシ、コップ、手鏡、筆記具(赤ペン等)、タオル
実習学生	筆記具
学校	歯垢染め出しジェル、綿棒、紙コップ(吐き出し用他)、ペットボトル又はやかん、学習シート、班のメンバー表等、手鏡(予備)

準備について 13:40~13:55(2年ランチルーム)

- ①班のプレート、メンバー表を各テーブルに貼っておく。
- ②ペットボトル又はやかんに水を入れておく。
- ③歯垢染め出しジェルをつけた綿棒を紙コップに入れ、各テーブルに置く。
- ④吐き出し用紙コップ、学習シートを班の人数分用意する。

指導の流れ

時間	生徒の活動	実習生の活動	備考
	・必要物をそれぞれのランチルームに持って行き、自分の班の机の上に置く。	・準備終了後、班のテーブルを確認し武道場へ移動する。	2組の保健委員は、歯ブラシケースを2年ランチルームへ持っていく。
5分	<p>全体説明(丸尾)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女一列、名簿順に並び(学生は担当生徒の横に並ぶ)、始まりの挨拶をする。 ・本時の目的、流れ、染め出し方法、注意事項について説明をする。 <p>【注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★14:40に、また最初と同じように武道場に並ぶ。 ★歯磨き実施中は、唾液は専用のコップに吐き出すこと。(終了後に捨てる。) 		
	1組は1年ランチルーム、2組は2年ランチルームに移動する。		
10分	歯の本数、歯並びや口の中の特徴を実習生と一緒に観察し、学習シートに記入する。		学習シート
	実習生の指導で染め出しをする。手鏡を使いながら歯の表裏にまんべんなく塗る。1回だけうがいをする。	染め出し剤のついた綿棒を渡し、コップに水注ぎながら、生徒に声をかける。	染め出しジェルをつけた綿棒 手鏡 紙コップ
30分	学習シートに記名をし、赤く染まった箇所を赤ペン等で塗る。	特に上の歯の裏側は気づきにくいいため、声をかけて見てあげる。	学習シート
	手鏡を活用し、きれいになるまで磨く。	歯並びや口腔状態に応じた歯磨き指導を心がける。	
	歯ブラシの使い方工夫した点を記入する。	生徒へのメッセージを記入する。	学習シートは、実習生が預かっておく。
5分	<ul style="list-style-type: none"> ・時間がきたら途中でもやめ、全員武道場へ集合する。(学習シートへの記入がまだの場合、実習生は片づけの時間に記入する。生徒は宿題にする。) ・感想発表(生徒:保健委員、実習生各1名ほど) 		2組の保健委員は、5時間目終了後歯ブラシケースを1年ランチルームへ持っていく。

後かたづけ(実習学生と丸尾で実施) *学習シートの回収